

「京都を学ぶセミナー-南山城編」第7回（開催報告）

2019年11月19日
京都学・歴彩館
075-723-4835

2017年度から開始した「南山城の文化資源」研究プロジェクトの成果を分かりやすく解説する「京都を学ぶセミナー【南山城編】」第7回を、下記のとおり開催しましたので報告します。

記

- 日 時 2019年11月19日（火）13:30~15:00
- 会 場 京都学・歴彩館大ホール
- 参加者数 137名
- 内 容 講演 京都府立大学准教授 上杉 和央
「江戸時代の南山城らしさ」

■ セミナーの様子と当日の参加者の声

南山城らしさとは何か？今回のセミナーは、江戸時代にさかのぼり南山城の地域的特徴を明らかにするものであった。南山城地域では、複数の領主が一つの村を支配する相給村落が一般的とされてきた。しかし、各地域をみると、領主の数や石高には大きな差異があり、かつ南山城の東西で地域性を帯びていることが判明する。

南山城地域のなかの差異は、領主数や石高といった支配体制にとどまるものではない。農業生産のあり方や生業、特産物なども、政治的・地理的・自然的な状況によって、一つの特徴にくることができない多様な様相を示していた。また宇治や奈良といった外部の地域との交流もうかがえた。

こうした内容を具体的な絵図やわかりやすい図表・グラフから説明した今回のセミナーは、これまでの南山城編のセミナーを総括するような内容となった。京都市内だけでなく、南山城地域をはじめとする市外・府外からも多くの来場者があり、「私の地元の「総論」が学べてよかった」「子どもの頃から往来していた地域の歴史、楽しく聞かせていただきました」といった好評を得た。

